

特定非営利活動法人 全国女性会館協議会

2025 年度 事業報告

2025 年度、全国女性会館協議会（以下、「協議会」）は「研修事業」「情報事業」「相談およびコンサルティング事業」「全国大会事業」「連携（助成）事業」ほか、各種事業を事業計画に基づいて実施しました。

2025 年度の全国大会は 7 月 30 日、31 日の 2 日間、大田区立男女平等推進センター「エセナおおた」にて実施しました。基調講演には東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授・白波瀬佐和子さんを迎え、「第 6 次男女共同参画基本計画に地域の観点から期待する点、課題について」をテーマにお話しいただき、その後パネルディスカッションを行いました。全国各地から 130 人を超える参加者を得ることができ、貴重な情報交換・交流の機会となりました。

防災・復興関連の事業としては、昨年に引き続き内閣府から「防災・災害対応における男女共同参画センター等の相互支援ネットワーク（相互支援ネット）」の運営に係る業務委託を受け、常時運用するとともに、2 回の運用訓練を実施しました。また、日本フィランソロピー協会の推薦を受け、日本ロレアル株式会社より寄付をいただき、「能登半島地震及び豪雨による被災地支援事業」を実施しました。会員から公募で選出した 8 名の支援員を 4 回にわたって輪島市に派遣し、主に女性を対象とした相談支援・居場所支援を行いました。

国においては、第 217 回通常国会において、独立行政法人国立女性教育会館（NVEC）を機能強化し、全国の男女共同参画センターをバックアップする「独立行政法人男女共同参画機構」とする法律が成立し、合わせて男女共同参画社会基本法が 25 年ぶりに一部改正され、全国の男女共同参画センターが男女共同参画の形成を促進する拠点として初めて法律に位置づけられました。また、計画実行・監視専門調査会のもとに設けられたワーキング・グループが取りまとめた「男女共同参画センターにおける業務及び運営についてのガイドライン作成検討に関する提言」に基づき、「男女共同参画センターにおける業務及び運営についてのガイドライン」が策定され、地方自治法に基づく技術的助言として政府から自治体へ発出されました。昨年度から策定が進められてきた第 6 次男女共同参画基本計画は 2026 年 3 月 13 日に閣議決定され、新年度からは新しい計画に基づいた国の施策が始動しようとしています。全国津々浦々で男女共同参画を推進していくための地域における拠点として、男女共同参画センターが担うべき役割はこれまで以上に大きくなろうとしています。協議会からは、男女共同参画会議の有識者議員、第 6 次計画策定専門調査会委員として代表理事・納米恵美子が参画し、総会、理事会、役員懇談会をはじめオンラインサロンなどの機会にいただいた意見や 11 月に実施した会員アンケート調査の結果等を踏まえて、男女共同参画センターの現場からの声を国の施策へ反映させるべく努めました。

一方、自治体のなかには、公共インフラの老朽化、財政ひっ迫への対応として、男女共同参画センターを含む公共施設のあり方について見直しを行う動きも見られます。こうした状況において、地域における男女共同参画推進が後退することがないように、協議会として、要望書を発出する等の対応を行いました。

1. 研修事業

男女共同参画センター、女性センター、婦人会館等（以下、男女共同参画センター等）で働く職員や行政職員、NPOスタッフ等を対象に、男女共同参画の推進に資する実践的な各種研修を企画・実施しました。また、国立女性教育会館（現：男女共同参画機構、以下旧名称を使用）等関連機関との連携・協力による研修も行いました。

（1）地域における男女共同参画推進研修

独立行政法人国立女性教育会館が実施する「地域における男女共同参画推進研修」のうち、全国女性会館協議会提供プログラムを共催しました。また、プログラム全体の企画、講師、ファシリテーターの推薦等に協力しました。

〈全体プログラム〉

実施日 2025年7月15日（火）～8月19日（火）
実施方法 オンライン開催
主催 国立女性教育会館

〈全国女性会館協議会提供プログラム〉

実施日時 2025年8月5日（火）13時00分～15時30分
実施方法 オンライン開催
実施内容 事例報告・グループワーク
テーマ 「いま、あらためて考える男女共同参画センターの機能と期待される役割」
内 容 インタビュー：鈴木準（ガイドライン策定WG座長）
事例報告：伊藤眞知子（山形県男女共同参画センターセンター長）
グループディスカッション
参加者数 35人

（2）男女共同参画事業に携わる方のための基礎・実践研修

男女共同参画センター等の職員や行政職員、NPOスタッフ等で、はじめて男女共同参画事業を担当する方および改めて学び直しをしたい方を対象に、男女共同参画の視点をもって事業を推進していくための基礎知識と実践力を身につける研修を実施しました。2025年度は港区立男女平等参画センター「リーブラ」の協力のもと実施することができました。

実施時期 2025年9月11日（木）、12日（金）
実施場所 港区立男女平等参画センター「リーブラ」
実施方法 対面開催
実施内容 講義・事例発表・ワークショップ
講 義 「男女共同参画センターで働くための基礎知識」
谷口年江（全国女性会館協議会常任理事）
「“行列のできる講座の作り方”講師直伝！事業企画のポイント」
坂田静香（全国女性会館協議会事務局長）
事例発表 イチオシ事業の中からピックアップ報告・質疑応答
（浜松市男女共同参画・文化芸術活動推進センター、熊本市男女共同参画センター）
ワーク 他センターの取り組みを知り、自センターの事業を振り返る

参加者数 21人

(3) 減災と男女共同参画 研修推進センター共催 「防災と男女共同参画に関する事業推進のためのオンライン人材育成研修」

発災時に、男女共同参画の視点で被災地にアドバイスや情報提供を行うなど、効果的な役割を果たすことができる人材を育成することを目的とした研修を実施しました。

実施日 2025年9月27日(土)、28日(日)
実施方法 オンライン開催
実施内容 講義・ワークショップ
参加者数 18人

(4) 男女共同参画センターの相談事業担当者または管理職のための研修事業

公募で採択された大田区立男女平等推進センターにて相談に関する研修を実施しました。AIやSNSの発展や、男性からの相談ニーズの顕在化など、社会の変化に対応できるよう、相談事業をアップデートする視点から、実践的に検討する内容でした。

実施日 2026年1月23日(金)、24日(土)
実施場所 大田区立男女平等推進センター「エセナおおた」
実施内容 講義・ワークショップ
講義① 「相談員はAIとどうつきあっていくのか～ジェンダーの視点から考える」
横山美和(都留文科大学教養学部准教授)
講義② 「男性DV被害者の相談対応～調査結果から見える心理と特徴」
西井開(一般社団法人UNLEARN理事/立教大学大学院社会デザイン研究科特任准教授)
活動報告 「相談から見える地域の課題～社会課題解決へのアプローチ」
林由美(男女共同参画センター・横浜、相談センター)
ワーク 社会の変化に対応できる相談員を増やすためにできること
参加者数 22人

2. 情報事業

男女共同参画センター等の管理運営および事業の企画・実施に役立つ情報を収集し、ホームページを通じて提供しました。

(1) ホームページの運用

協議会が実施する研修や調査結果の報告等を提供しました。また、会員館の職員募集、ならびに研修やイベント等の情報提供、アンケート調査や支援金の募集への協力を行いました。

(2) フェイスブックの運用

協議会の研修報告および会員館の活動報告や男女共同参画に関する情報発信を行いました。

(3) 会員館メーリングリストの運用

会員相互の情報交換、意見交換を活発に行うために会員館メーリングリストの活用をはかりました。

(4) オンラインサロンの開催

気軽に情報交換することを目的とした会員限定のオンラインサロンを開催しました。

実施日 2026年2月20日(金) 15時～16時
実施方法 オンライン開催
テーマ 「交流・居場所事業を実施しているセンターの交流」
情報提供者 穴吹好子(公益財団法人ふくい女性財団 専務理事兼事務局長)
東野香里(ふくいウィメンズ・オアシス コーディネーター)
参加者数 17人

3. 相談およびコンサルティング事業

会員館が直面する個別の課題解決に向けての相談、コンサルティングを実施しました。具体的には、2025年10月に彦根市男女共同参画センター「ウィズ」の閉館及び設置条例廃止に反対し再検討を求める要望書を彦根市長宛てに提出、また、2026年2月には静岡市の事務分掌条例の改正に際し、「男女共同参画に関する事項」を明示するよう、要望書を静岡市長ならびに静岡市会議長宛てに提出しました。

4. 全国大会事業

会員相互の情報交換・意見交換と研究協議を目的として、年に一度会員館との共催で全国大会を実施しています。2025年度は第69回全国大会を大田区立男女平等推進センターと共催で実施しました。あわせて「“スライド1枚で見せる”イチオン事業」の募集及び表彰を行いました。また2日目には、2つの分科会および全体会を実施しました。

実施日：2025年7月30日(水)、31日(木)
実施場所：スマイル大森地下2階、スマイル大森内大田区立男女平等推進センター「エセナおおた」

テーマ：「センター業務に反映させるため第6次基本計画の方向性を理解する」

実施方法：対面開催

プログラム

<第1日目>2025年7月30日(水)

“スライド1枚で見せる”イチオン事業大賞表彰式

1位 浜松市男女共同参画・文化芸術活動推進センター

2位 くにたち男女平等参画ステーション、熊本市男女共同参画センター

基調講演：「第6次男女共同参画基本計画に地域の観点から期待する点、課題について」

講師：白波瀬佐和子(東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授)

パネルディスカッション：「女性が暮らしやすく働きやすい地域とは？」

パネリスト：櫻井彩乃(一般社団法人GENCOURAGE 代表理事)

常見陽平(千葉商科大学基盤教育機構准教授/働き方評論家)

納米恵美子(全国女性会館協議会代表理事)

コメンテーター：白波瀬佐和子（基調講演講師）

コーディネーター：柴田美代子（全国女性会館協議会常任理事）

参加者：132人（一般参加者17人含む）

情報交換会：74人

<第2日目> 2025年7月31日（木）

分科会1「災害時に備えてセンターでできることを考える」参加者：52人

分科会2「困難を抱える女性の対応を知り、センター事業に活かす」参加者：47人

5. 連携（助成）事業

（1）内閣府委託「防災・災害対応における男女共同参画センター等の相互支援ネットワーク（相互支援ネット）の運営に係る業務」

2021年より内閣府の委託で実施している事業です。全国の男女センターの共助の仕組みを強化し、大規模災害発生時に、被災状況や女性のニーズについて、被災地の男女センターからの情報を本部事務局が集約・発信し、被災地の救援ニーズに応じて、被災地外の男女センターが物資、情報等を調達・提供する体制「相互支援ネットワーク」（通称：相互支援ネット）を運営しました。

① 年間の災害発生時のスレッド立ち上げ数：3件、投稿数6件

② オンライン研修・動作確認訓練の実施

「相互支援ネット」の目的および使用方法を確認することを目的として、登録機関向けにオンライン研修を2回実施しました。

【第1回訓練】

実施日時：2025年7月4日（金）14時～15時

形式：Zoomを用いて実施、HP「相互支援ネット」上で開催

内容：講義と動作確認訓練の2部構成

<講義> 「能登半島地震と女性たち：声なき声に耳を傾ける～ヒアリング調査から」

情報提供者：高橋聖子（公益財団法人みらい RITA プログラム・ストラテジスト）

<動作確認訓練> 操作方法説明・シミュレーション

訓練用トピック：本日の情報提供を聞いて、取り組んでみたいと思ったこと

参加機関：166機関

その他：訓練に参加できなかった機関のために、講義内容を録画し、7/7～27まで YouTube 配信を実施、視聴回数124回

【第2回訓練】

実施日時：2025年12月8日（月）14時～15時

形式：Zoomを用いて実施、HP「相互支援ネット」上で開催

内容：講義と動作確認訓練の2部構成

<講義> 「男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン」の説明

情報提供者：浅野幸子（減災と男女共同参画 研修推進センター共同代表）

<動作確認訓練> 操作方法説明・シミュレーション

訓練用トピック：本日の情報提供を聞いて、現場で取り組んでみたいと思ったこと

参加機関：118機関

その他：訓練に参加できなかった機関のために、講義内容を録画し、12/10～24 まで
YouTube 配信を実施、視聴回数 101 回

(2) 日本フィランソロピー協会寄附金事業「能登半島地震及び豪雨による被災地支援事業」

①主に女性を対象にした相談支援・居場所支援事業

実施日程：2025 年 5 月 21 日（水）～25 日（日）

2025 年 6 月 18 日（水）～22 日（日）

2025 年 7 月 9 日（水）～13 日（日）

2025 年 10 月 15 日（水）～19 日（日）

実施場所：輪島市内 派遣支援員：各回 2 人、計 8 人

②被災地での居場所支援・相談支援に関する研修

実施時期：2025 年 12 月 2 日（火）13：30～16：30

実施方法：ハイブリッド方式

実施場所：東京ウィメンズプラザ 1 階視聴覚室

内容：（1）輪島での居場所支援・相談支援の趣旨・概要、事業報告

（2）輪島での現地パートナー、ピースボード災害支援センターからの報告

（3）被災者支援コーディネーションガイドライン《多様性配慮》の説明

（4）ワークショップ

講師：浅野幸子（減災と男女共同参画 研修推進センター共同代表）

澤田かをり（ピースボード災害支援センター）

参加者数：53 人（オンライン参加者 27 人を含む）

(3) 日本テトラパック（株）助成「親子・子どもクッキングでシングルペアレントを応援事業」

日本テトラパック株式会社からの助成によって、環境問題への意識醸成およびシングル
で子育てをしている人を応援することを目的に、公募で採択された以下の 4 つの会員館で事
業を実施しました。

実施館・実施日・参加者数：

島根県立男女共同参画センター 2025 年 8 月 24 日（日） 9 組 18 人

越谷市男女共同参画支援センター 2025 年 9 月 6 日（土） 5 組 12 人

もりおか女性センター 2025 年 9 月 23 日（火） 7 組 17 人

堺市立男女共同参画センター 2025 年 10 月 26 日（日） 8 組 17 人

6. 調査研究事業

(1) 「2026 年度男女共同参画センター予算の動向についての調査」の実施

メンバー施設のうち、公的資金が投入されない民設民営施設を除く 85 施設を対象に
男女共同参画会議や第 6 次男女共同参画基本計画策定専門調査会等の機会を通じて、現場の
声を国に届ける際の基礎資料とするために実施し、結果は HP に公開しました。

調査実施期間：2025 年 11 月 1 日～15 日

調査方法：オンラインアンケート

回収状況：57 施設回答。回収数 67%

7. 人材情報ネットワーク事業

ホームページや会員館メーリングリスト等を活用し、会員館の要望に応じて今年度はのべ10団体の男女共同参画センター等のスタッフの募集・採用情報を発信しました。

8. 防災・復興関連事業

(1) 内閣府委託「防災・災害対応における男女共同参画センター等の相互支援ネットワーク（相互支援ネット）の運営に係る業務」（再掲）

2021年より内閣府の委託で実施している事業です。全国の男女センターの共助の仕組みを強化し、大規模災害発生時に、被災状況や女性のニーズについて、被災地の男女センターからの情報を本部事務局が集約・発信し、被災地の救援ニーズに応じて、被災地外の男女センターが物資、情報等を調達・提供する体制「相互支援ネットワーク」（通称：相互支援ネット）を運営しました。

① 年間の災害発生時のスレッド立ち上げ数：3件、投稿数6件

② オンライン研修・動作確認訓練の実施

「相互支援ネット」の目的および使用方法を確認することを目的として、登録機関向けにオンライン研修を2回実施しました。

【第1回訓練】

実施日時：2025年7月4日（金）14時～15時

形式：Zoomを用いて実施、HP「相互支援ネット」上で開催

内容：講義と動作確認訓練の2部構成

〈講義〉「能登半島地震と女性たち：声なき声に耳を傾ける～ヒアリング調査から」

情報提供者：高橋聖子（公益財団法人みらいRITAプログラム・ストラテジスト）

〈動作確認訓練〉操作方法説明・シミュレーション

訓練用トピック：本日の情報提供を聞いて、取り組んでみたいと思ったこと

参加機関：166機関

その他：訓練に参加できなかった機関のために、講義内容を録画し、7/7～27までYouTube配信を実施、視聴回数124回

【第2回訓練】

実施日時：2025年12月8日（月）14時～15時

形式：Zoomを用いて実施、HP「相互支援ネット」上で開催

内容：講義と動作確認訓練の2部構成

〈講義〉「男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン」の説明

情報提供者：浅野幸子（減災と男女共同参画 研修推進センター共同代表）

〈動作確認訓練〉操作方法説明・シミュレーション

訓練用トピック：本日の情報提供を聞いて、現場で取り組んでみたいと思ったこと

参加機関：118機関

その他：訓練に参加できなかった機関のために、講義内容を録画し、12/10～24までYouTube配信を実施、視聴回数101回

(2) 日本フィランソロピー協会寄附金事業「能登半島地震及び豪雨による被災地支援事業」

(再掲)

①主に女性を対象にした相談支援・居場所支援事業

実施日程：2025年5月21日(水)～25日(日)

2025年6月18日(水)～22日(日)

2025年7月9日(水)～13日(日)

2025年10月15日(水)～19日(日)

実施場所：輪島市内 派遣支援員：各回2人、計8人

②被災地での居場所支援・相談支援に関する研修

実施時期：2025年12月2日(火) 13:30～16:30

実施方法：ハイブリッド方式

実施場所：東京ウィメンズプラザ 1階視聴覚室

内容：(1) 輪島での居場所支援・相談支援の趣旨・概要、事業報告

(2) 輪島での現地パートナー、ピースボード災害支援センターからの報告

(3) 被災者支援コーディネーションガイドライン《多様性配慮》の説明

(4) ワークショップ

講師：浅野幸子(減災と男女共同参画 研修推進センター共同代表)

澤田かをり(ピースボード災害支援センター)

参加者数：53人(オンライン参加者27人を含む)

(3) ぼうさいこくたい 2025 出展

国立女性教育会館およびTEAM 防災ジャパンとの共催でトークセッションを実施しました。

テーマ：「ジェンダー視点の被災者支援の意義と実際

～男女共同参画センターの活動及び多様な主体の連携の視点から考える」

日時：2025年9月7日(日)

会場：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

参加者：130人

9. 会員拡大促進事業

安定した組織運営、基盤整備のために、会員拡大促進に取り組みました。

10. 運営関係

(1) 2025 年度通常総会の開催

実施日 2025年6月12日(木) 13時～14時20分 オンライン開催

(2) 2025 年度理事会の開催

第1回理事会 2025年6月12日(木) 10時～11時20分 オンライン開催

第2回理事会 2025年6月12日(木) 13時57分～14時07分 オンライン開催

第3回理事会 2025年12月8日(月) 10時～11時20分 オンライン開催

(3) 役員懇談会開催

第1回役員懇談会 2025年7月31日(木) 13時～14時

於) 大田区立男女平等推進センター
臨時役員懇談会 2026年3月27日(金) 10時30分~12時 オンライン開催

(4) 常任理事会の開催

定例常任理事会を毎月1回開催しました。4月と9月は対面開催、それ以外はオンライン開催。

第1回常任理事会	2025年4月27日(日)	於) 横浜テラス1階会議室
第2回常任理事会	2025年5月22日(木)	
第3回常任理事会	2025年6月24日(火)	
第4回常任理事会	2025年7月27日(日)	
第5回常任理事会	2025年8月20日(水)	
第6回常任理事会	2025年9月28日(日)	於) パシオン TOKYO
第7回常任理事会	2025年10月29日(水)	
第8回常任理事会	2025年11月21日(金)	
第9回常任理事会	2025年12月26日(金)	
第10回常任理事会	2026年1月26日(月)	
第11回常任理事会	2026年2月20日(金)	
第12回常任理事会	2026年3月19日(木)	

(5) 事務メールの運用

事務連絡の効率化、経済化をすすめるため、事務メールを活用しました。

11. 会員の動向

団体会員が2団体入会、個人会員が3人退会、7人入会。2026年3月31日現在で、団体会員81、メンバー施設92(休会1施設含む)、個人会員37人、賛助会員1人です。

12. その他

(1) 要望書の提出

- ①「彦根市男女共同参画センター・ウィズの閉館およびセンター設置条例廃止に反対し、再検討を求める要望書」を提出 2025年10月10日
- ②「静岡市における男女共同参画行政についての要望書」を提出 2026年2月13日

(2) 国等の委員への参画状況

① 防災推進国民会議

内閣府防災担当が組織している、国民普及啓発のための各界のプラットフォームである「防災推進国民会議」に団体として参画していると同時に、常任理事が議員として会議に出席しています。

② 男女共同参画会議

男女共同参画基本法に基づく上記会議に代表理事が民間議員として参加しているほか、同会議のもとに設けられた「女性に対する暴力に関する専門調査会」ならびに「計画策定専門調査会」には委員として参加しています。

(3) 「女性関連施設のあゆみ展」への協力

国立女性教育会館が主催する「女性関連施設のあゆみ展」（会期:2025年10月7日～2026年5月31日）に全国女性会館協議会は協力しました。